
富野耕治、 花菖蒲、撫子で伊勢文化を描く

横浜市 椎野 昌宏

伊勢神宮詣りは室町時代から始まり、江戸時代には人々の最大の楽しみの一つとなったといわれます。[お蔭詣り]と唱えてみな伊勢へ伊勢へと行きました。これはちょうど現代の海外旅行ブームと同じようなことだったのでしょう。その伊勢地方には全国からやってくる人々に、美しくみせようとする文化が育ち、草花園芸の世界でも、伊勢三花と賞される伊勢菊、伊勢花菖蒲、伊勢撫子が生まれました。富野耕治さんは隣県の名古屋生まれですが、三重大学教授とし伊勢産植物類を調査研究しましたので、その成果を中心に本稿を進めていきます。

生い立ち

明治43年(1910)、名古屋市生まれの名古屋育ちで生粋の名古屋人です。三重高等農林学校(現三重大学農学部)を卒業して教職につき、農学博士号を取得し、三重大学農学部教授となりました。昭和48年(1973)に同大学退官後、名古屋女子大学家政学部教授となり昭和58年(1983)まで勤め、引退しました。富野さんは教職にあって種々の植物を研究し指導してきたものと思いますが、特に地元の三重県に本拠をもつ伊勢三花の園芸植物に傾斜しその成果を発表してきました。昔から、伊勢人たちの好みは、伊勢撫子や伊勢菊や伊勢花菖蒲に見られる花卉が垂れたり、狂いが出たりする風情の花容にあり、それを目標に淘汰改良してきました。本稿は富野さんの植物人生の始まりから、手がけた伊勢花菖蒲と伊勢撫子の世界を中心に記述していきます。

植物、園芸の世界へ

ご子息の富野孝生さんは父耕治について次

のように思い出を語っています。

その1.

父が幼少のころ、祖母に背負われて庭に下り立った時、祖母が庭に咲く‘ハゲイトウ’の色鮮やかさに感動してか、言うともなく‘これがハゲイトウ’とゆっくりつぶやいた言葉が天の声に似て、爾来、自分が自然界の植物に接することを得た思い出深い瞬間として、貴重な一言であったと語っていました。

その2.

父は戦時中、中支の[武漢作戦]に参戦しました。そして迎えた終戦時には復員するまで、現地で懸命にトマト作りに専念しました。また所属部隊のビタミン栄養補給に関わり、野菜の栽培に明け暮れました。関係者から‘今日撒いた種から2-3日後には収穫できるか’というせっぱつまった難問というか、おかしな愚問を受けたようです。

富野の植物、園芸世界への傾注はこのように自然態で始まったようです。

花菖蒲の研究と改良

花菖蒲は江戸時代以後、江戸系、肥後系、伊勢系と3つのグループに改良されてきました。それぞれの地域の人々の好みや民度を反映して、異なった花の姿や形が表現されました。これらを総合して、戦後出版された文献として平尾秀一の[花菖蒲]昭和34年加島書店発行と富野耕治の[花菖蒲]昭和49年泰文館発行の2冊があります。さらに花菖蒲大図譜、栗林元二郎、平尾秀一著日本花菖蒲協会監修1971年朝日新聞社刊を加えて、これら3冊が筆者のような花菖蒲栽培家にとっての拠るべき権威ある参考書でした。富野さんは明治43年(1910)生まれ、平尾さんは大正8年(1919)生まれで、平尾さんは富野さんを先輩として敬意をはらっていたようで、研究育種の実践面でもおたがいにぶつからないように配慮していたようです。歴史の古い江戸系は別格として富野さんは伊勢系に平尾さん

は肥後系により傾倒して研究や育種に励んだようです。

伊勢系花菖蒲の歴史

このグループは最初は松坂花菖蒲と呼ばれていたが、後に地域的配慮から伊勢花菖蒲と改め、今日に至っています。そしていまから約180年前、松坂に住んでいた紀州藩士の吉井定五郎（1776-1859）によって作りだされたものといわれています。定五郎自身が近在のノハナショウブから変わりものを採取しそれを基に作り上げたという話もありますが、通説では某家で栽培されていた江戸系の花菖蒲を譲り受け、その実生から本品種グループを育てあげたとされています。富野さんはこの間の事情を次のように説明しています。

‘東京ハナショウブ（江戸系）の花形にはいろいろあるが、なかでも垂れ咲という長弁のものが伊勢ハナショウブによく似ているものがある。古来、伊勢人の好みは伊勢ナデシコや伊勢ギクに見られる狂いの出るものを目標に淘汰が加えられてきた。恐らく東京ハナショウブの〔座間の森〕のような垂れ咲の品種が最初に選ばれ、ついで花弁に変化のあるものなどが採りいれられたのではないかと思う。’

その後、後継者たちにより改良し栽培されてきたが、全国的に普及されるまでに至らず、ほとんど伊勢地方だけに限られていました。昭和27年3月（1952）に伊勢撫子、伊勢菊とともに三重県指定の天然記念物となり、三重大学で保存することになり、富野さんが中心となって育種を進め、広く紹介することに務めたため、江戸、肥後とともに各地で植栽されるようになりました。

花菖蒲 ‘美吉野’ その典雅な美

富野さんは昭和30年～35年（1955-1960）にかけて多くの伊勢系花菖蒲を作出し発表しましたが、なかでも美吉野は秀逸で、今でも

盛んに栽培されており、花菖蒲愛好家による人気投票のベストファイブに常にランクインされています。清らかな美しいピンクの三英、中輪、垂れ咲で鉢植えによる展示の常連です。また菖蒲園でもたくさん植えると早い時期から遅くまで1ヶ月近くも咲き続けます。葉も緑の濃い剣葉で花とともに典雅な草姿を表演します。後世に残る名花といえます。

伊勢タイプ名花「美吉野」



その他に富野作出の主なものは次の通りです。

- 極光 ピンク色、弁元濃く縁に向かって白くなる、三英、中大輪
- 桜獅子 淡紅色、六英または八英、獅子咲、中大輪
- 松籟 藤紫色、三英、波状うす弁
- 竹生島 藤色ぼかし、三英、中輪
- 美濃寿 紫すじ入り、弁縁白糸覆輪、三英、中輪

いずれも垂れ咲の伊勢系富野種で現在も広く栽培されています。

伊勢撫子への愛着

伊勢撫子（*Dianthus chinensis* L.var.*laciniatus* koern）は元を辿ると、中国産のセキチクから変化したというのが定説です。最初の渡来地がサツマでカラナデシコ（唐撫子）と呼ばび、大阪へ来て大阪ナデシコといわれ、やがて伊勢松坂に至って同地に住んでいた継松栄

二（1803-1866）の目にとまり、細かく裂けて垂れ下がるように改良され、伊勢撫子と呼ぶようになりました。さらに江戸にわたり花合わせの会でも人気が出ました。それから後継者によって松坂を中心にして保存栽培されてきましたが、岡村金蔵や富野によって研究指導され、体系化されました。昭和27年に伊勢花菖蒲、伊勢菊とともに三重県指定の天然記念物となってからは、地名度が高まり、全国的な存在となりました。

伊勢撫子の特性と園芸的發展

伊勢撫子は何本にも分かれ縮れながら、長く下垂する花弁に特徴があり、繊細で玄妙な風情で人目を引きつけます。蕾から自力では整った姿に開花しないので、爪楊枝などで髪をとかすように、花弁をほぐします。長く垂れる花弁は10cmから15cm程になります。花色は白、桃、朱紅、藤、紅藤、赤、ボカシや刷毛目入りなど変化に富んでいます。

その特性と保存の問題点について富野さんは発表した文献により次のように説明しています。

‘伊勢撫子の品種は、遺伝的に正確なものがほとんどない。かなり高い自家不和合性をもつので採取上の困難が伴うことと、雄シベ先熟で自家受粉がしにくいいためである。そこで従来品種を色彩・絞りによって4型に分類し、それぞれの型の中で優良個体を数本ずつ選びそれらを採種母体として種子を得るようにし、淘汰の効果を得た。また各型間の交雑も実施した。

注：緋紅色に咲く型（初日の出）、紅と白の絞りの花色をもつ型（春霞）、薄いピンクや桜色に咲く型（桜狩）、白に咲く型（初日の出）の4つの型

他の伝統的園芸植物にも見られる現象ですが、長い歴史と共に維持されてきた植物は、極度に限られた範囲での交配が繰り返されてきたため、まったく虚弱な体質になってしま

います。伊勢撫子の場合、挿し芽による栄養増殖がモザイクなどの発生で不適で、このような手間のかかる増殖方式をとったわけです。

さらに富野さんから種子を分譲された加茂花菖蒲園の一江豊一さんは、コルヒチン処理により倍数体化し、四倍体の新しい品種群を開発しました。平成5年から名称付品種として販売を始めました。葉がやや広いが、丈夫で花も大きく作りやすいといわれています。5月には同園で展示され、一般に公開され、普及に一役かっています。

富野に黙礼

富野さんは学者であると同時に、実践的な園芸家として私たち後輩に記憶されています。伊勢地方の園芸文化である伊勢花菖蒲、伊勢撫子、伊勢菊を局地的なものから、全国的な位置まで高めるために努力されました。筆者個人の思い出は昭和63年（1988）にさかのぼります。同年6月8日に彼の理解者であった日本花菖蒲会会長平尾秀一さんが京都駅で急逝しましたが、その穴を埋めるべく、2週間後に迫った奈良県宇陀市にある滝谷花菖蒲園への会員研修旅行に参加され、協会の将来について色々心配し話しておられました。私の印象としては極めて温厚にして篤実な大先輩でした。1963年にはドイツのハンブルグ国際園芸展で銅賞を受賞したり、年代は不詳だが戦後昭和天皇が行幸の折、三重大学で伊勢三花をご覧に入れ、ご説明の栄に浴したと息子の孝生さんに語っていました。園芸世界における富野さんの地道な歩みが報いられたものと思います。そして平成4年（1992）に82才で功成って亡くられました。

参考文献

『花菖蒲』 富野耕治著

泰文館 昭和49年

『伊勢ナデシコ』 富野耕治執筆

ガーデンライフ 1972年5月